

日本土木工業協会関西支部 設立20周年を迎えて



ごあいさつ

支部開設以来20年、その間建設業界はオイルショック、更には財政再建、行政改革等の政府施策による公共設備投資の抑制等、幾多の困難に遭遇してまいりましたが、常に新技術の研究開発、経営の合理化をはじめ、企業体質の強化、業界の近代化、社会的地位の向上等に絶ゆまぬ努力を続けてまいりました。

わが国の社会資本は国土保全、道路、上下水道、公園施設いずれをとりましても欧米先進諸国の“2分の1以下”と言われるほど大きく立ち遅れており、来るべき国際化社会、情報化社会、高齢化社会への対応のため、その整備は急務となっています。

また、近畿圏の経済地盤の沈下が叫ばれて久しいものがありますが、近畿の復権をかけた関西新国際空港、京阪奈文化学術研究都市、明石海峡大橋の三大プロジェクトがようやくその緒につき、更に潤いのある豊かな社会の創造をめざして、国際花と緑の博覧会計画が昭和65年4月開場に向けて着々と進められており、国際文化都市圏としての構想が整ってまいりました。21世紀に向け官民こそってこれらのプロジェクトを推進しているところでありますが、その鍵となりますのは基盤となる社会資本の整備充実であります。

私ども建設産業界は、この経済社会発展の基盤となる社会資本整備のための重要な役割を担うことは言うまでもありません。そのためには建設産業界の社会的使命を自覚し、私ども自身より一層厳しい自助努力を重ねてまいりたいと存じます。今後とも皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

昭和61年11月1日

社団法人 日本土木工業協会関西支部

支部長 勝田 悦之